

# 本書の特徴

## 📖 本書の対象者

言うまでもないが、本書の対象者は試験で自由英作文を課せられる人たちである。具体的には大学を目指す受験生とTOEFL®でコンピューター試験の作文を必要とする受験者などである。自由英作文以外では、後に〈本書の使い方〉で説明するが、各見開きのページに和文と英文が左右対称に並べられているので、左ページの日本語を英語で表現してみるという使い方をすれば、いろんなテーマで自分の意見を英語で述べるための練習素材として使うことも可能である。

## 📖 本書のねらい

自由英作文の学習者が本当に求めているのは、できるだけ多くのテーマの模範解答となる英文が示され、さらに、それらの英文から書くべき内容を定めるためのヒントが示されているような参考書ではないかと考える。そこで、本書は〈自由英作文の書き方〉に関する指導はもとより、〈実際によく出題されるテーマの解答例〉をできるだけ多く掲載した。単なる書き方に関する指南書には終わらず、学習者が本書を通じて、書く内容のヒントも得られるように配慮した。

## 📖 本書の構成

自由英作文の参考書など何冊も買うことは普通ないと思われるので、本書一冊で必要最低限のことは全て掲載してある。すなわち、書き方の話から実際どのような内容のことを書けばよいかということ、そして、その際によく用いる英語表現の3項目である。〈自由英作文の書き方〉は序章という形で最初に設けた。ここに書式や段落構成の説明はもちろん、従来の指南書ではあまり説明されてこなかった〈内容の発想法・切り口〉のことまで説明している。

続く本編は5章に分け、自由英作文のテーマとして頻出のものを取り上げた。ここでは、模範文そのものが暗記例文となるように作ってある。さらに、暗記文として使うことを配慮して、自由英作文の長い答案例をただ掲載するのではなく、暗記しやすいように内容の塊ごとかたまりにセンテンスを分離し、それも単なる機械的暗記にならないように、そういう解答例に至った発想法の元になる切り口を一例ごとに記してある。さらに、よく使われる言い回しや各テーマで必要とされる専門用語などは脚注の【表現研究】の欄で解説している。なお、ここに掲げた英文は全てネイティブ・スピーカーのバーナード先生にご指導いただいた。